

## 第19回教育研究審議会

### 議事概要

日 時 令和2年2月5日(水) 午後4時00分～午後6時02分  
場 所 本部棟 3階 大会議室  
出席者 福田誠治学長、阿毛久芳副学長、新保祐司副学長、深澤祥邦事務局長、小林重雄理事、竹島達也大学院研究科委員長、西尾理学長補佐、加藤めぐみ学長補佐、平野耕一学長補佐、樋口雄人学長補佐、加藤敦子国文学科長、Hywel Evans 英文学科長、山本芳美比較文化学科長、原和久国際教育学科長、鳥原正敏学校教育学科長、春日尚雄地域社会学科長、野中潤図書館長(兼)情報センター長、廣田健教職支援センター長、茂木秀昭国際交流センター長、豊嶋朗子語学教育センター長、市原学入学センター長、矢嶋亘総務課長、石川和広経営企画課長、藤江隆学生課長  
欠席者 竹下勝雄地域交流研究センター長

福田学長より挨拶

---

## 2 議 事

- (1) 特任教員の採用について(地域社会学科)1件
  - 担当から資料1に基づき「教員選考結果報告書」について説明。  
→2週間の閲覧に供し、次回投票する。
  - ◇新規採用者 特任教授C 東海地区東南アジア歴史学 雇用期間 R2.4.1～R3.3.31  
→ビジョンとしては毎年夏の留学を想定しているのか。  
→来年度には最低でも、短期留学受け入れに関する協定の締結を目的としている。  
→業務内容の詳細を事務局と相談のうえ決定し勤務状況の管理を行うこと。
- (2) 専任教員の移籍について(国際教育学科)1件
  - 担当から資料1に基づき「教員選考結果報告書」について説明。  
→2週間の閲覧に供し、次回投票する。
  - ◇移籍該当教員 現・教育学部学校教育学科教授  
・教員選考委員会全会一致で移籍に賛同。
- (3) 専任教員の昇任について(地域社会学科)2件
  - 担当から資料3-1に基づき「教員選考結果報告書」について説明。  
→2週間の閲覧に供し、次回投票する。
  - ◇昇任該当教員 (専任講師 → 准教授)
    - ・准教授昇任の条件を満たしており全員一致で准教授への昇任を提案。
  - 担当から資料3-2に基づき「教員選考結果報告書」について説明。  
→2週間の閲覧に供し、次回投票する。

◇昇任該当教員（専任講師 → 准教授）

・准教授昇任の条件を満たしており全員一致で准教授への昇任を提案。

(4) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案について（地域社会学科）2件

○担当から資料 4-1 に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。

→提案通り承認。

◇資料・データ分析 A・B・C

◆現担当者の退職のため

○担当から資料 4-2 に基づき「非常勤講師採用候補者の提案」について説明。

（第 16 回教育研究審議会再提案分）→提案通り承認（予定半年間）。

・地域社会学科教員が直接面談し、専門領域および日本語能力ともに問題ない確認をした。

◇日本社会学・日本保健医療社会学・首都大学東京社会学

新規採用者 ランク B

○担当から資料 4-3 に基づき「非常勤講師採用候補者の提案」について説明。

→提案通り承認（予定半年間）。

◇日本社会学・関東社会学・日本オーラルヒストリー学・早稲田社会学

新規採用者 ランク C

(5) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案について（語学教育センター）1件

○担当から資料 5-1 に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。

→提案通り承認。

◇日本語教育特論 I（子ども）・日本語教育評価法

◆現担当者の退職のため

○担当から資料 5-2 に基づき「非常勤講師採用候補者の提案」について説明。

→提案通り承認（予定半年間）。

◇日本語教育学・言語文化教育学・早稲田日本語教育学

新規採用者 ランク A

→職歴に「インストラクター非常勤」とあるがどういう意味なのか。

→非常勤講師ではなく短期的に集中で行っているものであると考えられる。

→日本へ来た子供たちが母語との共存ができるか、また、母語を失うことでアイデンティティーが壊れてしまわないようなどを重視して授業を行ってもらうこと。

(6) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案について（共通教育）1件

○担当から資料 6-1 に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。

→提案通り承認。

◇情報資源組織演習 A・情報資源組織演習 B

◆前担当者の退職のため

○担当から資料 5-2 に基づき「非常勤講師採用候補者の提案」について説明。

→書類再確認のため再提案。

◇日本図書館情報学

新規採用者 ランク A

→学歴上、大学の在学年数が長いがなぜか。

→教育研究業績書も未記入欄の確認をした方が良い。

→シラバスについても 1・2 あると考えられるため確認をした方が良い。

→再度、書類を再提出してもらい確認後に再提案をすること。

(7) 特任教員及び非常勤講師第2種の任期更新について（保健センター）2件

○担当から資料7-1に基づき「特任教員の任期更新」について説明。→提案通り承認。

◇Cタイプ・R2.4.1から1年間

○担当から資料7-2に基づき「非常勤講師第2種の任期更新」について説明。

→提案通り承認。

◇ランクA・R2.4.1から1年間

(8) 令和2年度 非常勤講師授業担当科目について（第9回）

○担当から資料8に基づき説明。→提案通り承認。

(9) 日本語教育（JAST）プログラムについて（国際交流センター・語学教育センター）

○担当から資料9に基づき説明。→提案通り承認。

- ・提携先の要望に応じて作成したプログラムであるが需要がなくなり、現在受け入れをしている留学生の要望とずれが生じているため改定を行いたい。

(10) 交換留学プログラム及び語学研修について

○担当から資料10に基づき「交換留学プログラムについて説明。→方向性について承認。

- ・JASTプログラム及びJSPプログラムがあるため複雑になっており運用上で支障をきたしている。このため一本化に再編成したい。

→学生が魅力を感じるパンフレットの作成をすること。また、他学でも行っているが、目的や身に付く力の表記やシラバス、評価方法などの検討の作業に取り掛かること。

→①JSPも統合される理解で良いか。②各担当教員は承知しているか。③北欧からの留学生も履修できるか。

→①そのとおりである。②以前一度了承を得ているが再度確認をする。③履修できる方向で考えている。

→項目名設定に違和感がある部分がある。

→留学生が単位互換可能となる項目設定とすること。

→意見をいただいた箇所などの確認を行い反映させる。

○担当から資料10に基づき「語学研修」について説明。

→内容等を精査のうえ最終的には学長判断。

- ・フィリピン語学研修の教員引率について①マニラ空港での乗り継ぎ②生活・学習上の支援③今後の国際交流事業の検討のため必要がある。

→予算計上はあるのか。

→国際交流センター予算で支出可能である。

→教員引率理由の主体が③であり国際交流センターが依頼したものである必要がある。

→引率先の大学での面談日時及び面談相手を明らかにして、確実なアポイントメントを必要として、協議する内容も出発前に示してもらう必要がある。

→学長若しくは国際交流センター長の代理としての手紙などを持たせて行かせたら良いのではないか。

→語学研修について新たな指針決定前に学生募集をしているのではないか。

→学生募集時に教員の引率ありきで募集しているのならば大学として責任の問題はある。

また、教育審議会委員ではない引率担当教員に対しては、指針決定プロセスを知りえなかったため指針公表前に予定していたのであればキャンセル料の問題はある。

→国際交流センターの事業であり、国際交流センター予算からの支出とするのであれば国際交流センターから担当教員へ依頼して行ってもらっている理由が必要である。

→再度、事業主体部署や募集要項内容（教員引率の有無など）を再確認して、国際交流セン

-予算からの支出として適切な理由などがあるか整理したうえで、学生に対して問題が生じないように処理するものとする。

(1 1) 中国との交換留学について

○担当から資料 11 に基づき「中国における新型コロナウイルスの発生状況とその状況」について説明。→現状報告を受け、今後の状況に応じて学長判断。

→刻々と状況が変化しており今後の見通しが判断できない状況であり、他大学の状況などもあるとは考えるが延期の方向で検討すべきである。

→学生に危険がおよぶ可能性がある以上、少なくとも前期分は延期で良いと考える。

→派遣学生のうち、ゼミ生 2 名から遠隔授業の申請が出ているが、当然前期は行くべきではないが、該当学生への個々の期間調整など配慮が必要である。

→特定の大学だけではなく、情報収集方法として多くの大学などから情報を得る必要があると考える。

→派遣学生ではなく受け入れ学生の対応予定はどうするのか。

→受け入れについて国が入国を許可している場合、本学独自で拒否するためには説明責任が生じる。いずれにしても、状況変化に応じた早期の対応が必要であるため、今後の最終判断は学長判断とする。

(1 2) その他 ○なし

3 報 告

(1) 年度別志願者数について

○資料 12 「年度別志願者数」※説明省略

(2) その他

○担当→所属部署以外の専任教員関係について、該当教員①については 2 月 19 日に教員選考委員会を開催する予定であり、該当教員②関係については、科目担当できる非常勤講師を現在探している状況である。

4 その他

○担当から、あくまでも私案となるが、来年度の教育研究審議会委員名簿（予定）を紙媒体により配布。

5 閉 会

以 上